

英国における医療体制

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中で懸念されていることが、医療システムが機能しなくなる医療崩壊である。医療崩壊が起きれば、多くの重症者に対応しきれなくなり、死者が急増する恐れがある。2020年3月、英国においても感染が急速に拡大し、病床数や人員不足により英国医療制度「National Health Service（以下「NHS」という。）」の崩壊という危険が高まったことから、政府は様々な感染防止策を講じた。たとえば、コロナウイルス専用の野戦病院「NHSナイチンゲール病院」を開設し、病床数を拡充したほか、マット・ハンコック保健相は人員不足解消のため、退職した医療従事者に現場復帰を呼びかけ、多くの医療従事者がこれに応じた。結果、英国は医療崩壊という最悪の事態を脱することができたわけだが、これは政府の対策や医療従事者の功績だけでなく、当時、イギリス国民がしっかりとルールを守り行動したことも少なからず影響している。

イギリス国民の一体感を生んだ一つの要因がNHSの存在である。ジョンソン首相は会見時に「NHSを守ろう（Protect the NHS）」をスローガンに掲げ、我々のNHSを守り、命を救うことを繰り返し強調した。各新聞社はこの政府の方針に倣い、最前線で戦う医療従事者の姿を報道したほか、この難局を乗り越えるため、募金活動や読者からのメッセージを呼びかける「Thanks a million NHS」キャンペーン¹を立ち上げた。英国大手スーパーも、食料不足解消のため医療従事者に優先の買い物枠を設けた。また、医療従事者への賛辞の意として、毎週木曜日午後8時に自宅のベランダから拍手を送る「Clap for our Carers」には、王族や政治家、著名人も参加したことで、その影響は英国全土に広がった。このように、NHSを守るためイギリス国民が一丸となって行動できたのは、NHSがイギリス国民の生活基盤として大切な存在であり、英国の医療を支える主軸となっているからである。

そこで、本レポートでは、英国の医療体制を支えるNHS制度がどのようなものなのか、その仕組みについて紹介する。なお、本レポートにおけるNHSとは、特に明示のない限りイングランドにおけるNHSを指すこととする。

1. 組織・運営

英国の医療制度は、国籍を問わず全住民に対して無料の医療を提供する国営医療制度「NHS」によって運営されている（保険料負担はある）。NHSは第二次世界大戦後の1948年に設立され、政府外公共機関²（執行機関）として、英国保健省（DHSC）の管轄下にある。NHSのサービスは英国全土に跨るが、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド4つの地

¹ NHSのスタッフをヒーローと讃え、感謝のメッセージを募る Reach社が始めたキャンペーン。

<https://www.thanksamillionnhs.co.uk/messages.html>

² 中央政府の政策過程において役割を有しているが、政府の省またはその一部でないものであり、日々の意思決定については政府から独立している組織。

域ごとに分割・運営されているため、医療サービスの内容にも地域ごとに違いがある。たとえば、スコットランド及び北アイルランドでは医療サービスだけでなく、ソーシャルケア（高齢者や障害者へのサービス）も管轄しているが、イングランド及びウェールズでは管轄外³となっている。また、北アイルランドのみは北アイルランド政府の保健省管轄下のHealth and Social Care(HSC⁴)によって管理されており、NHSの名称を使用していないが、制度的にはNHSの原則に則っており、4つの地域での医療サービスを総じてNHSと呼ぶのが一般的である。

NHSサービスの提供体制としては、一般開業医（General Practitioner、以下「GP」という。）がプライマリーケア（一次医療）を担当し、病院（専門医）がセカンダリーケア（二次医療）を担当するという形で、役割分担が明確化されている。そのため、患者は、日本のように患者の判断で直接病院に出向くことはなく、原則として、まず地元のGPで診察を受けることとなり、必要に応じて専門医の紹介を受け、病院で受診するという仕組みとなっている。

NHSの組織構成は、医療サービスの提供体制に合わせて大きくプライマリーケアとセカンダリーケアに分類される。プライマリーケアについては、臨床委託グループ（Clinical Commissioning Groups、以下、「CCGs⁵」という。）が地域のGPを通じてサービスの提供を行っている。すべてのGPが地域ごとに設立されたCCGsに加入することとなっているが、そのほか看護師等の医療従事者も構成員となっている。CCGsは日常的な医療の提供と質の向上について責任を持ち、NHSの予算から65%超の配分を受けて管理している。地域に合う医療サービスを検討し、GPや病院等の適切な医療機関に委託する役割を担っているほか、メンタルヘルス、訪問看護などのコミュニティサービス、救急医療等に関して、政策決定や予算配分の調整も行う。

セカンダリーケアについては、主にNHS trust（国立病院が移管した公営企業体）及びNHS Foundation Trust（以下、「FT」という。）が経営する病院がサービスを提供している。2004年に設立されたFTは、非営利の公益法人であり、NHSの一部として病院、メンタルヘルス、救急車によるサービスの半分以上を提供している。政府からの直接の指示を受けず、自らの戦略や運営方針を決められる点や財政的自由がある点において、NHS Trustとは異なる⁶。

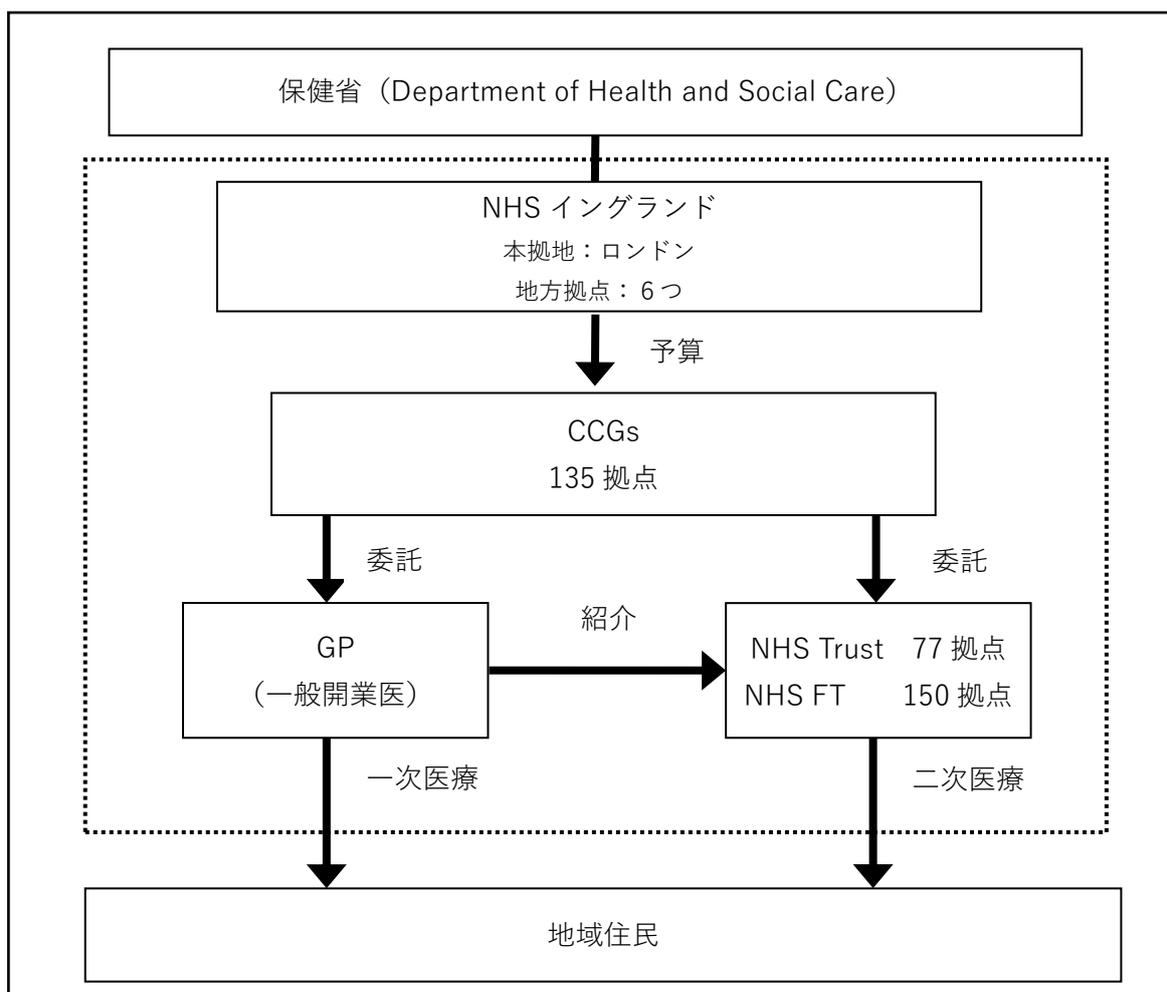
NHSの体制（主な組織のみ抜粋）

³ イングランド及びウェールズにおけるソーシャルケアは、各地方自治体が担当している。

⁴ <http://online.hscni.net/home/hsc-structure/>

⁵ <https://translate.google.co.uk/translate?hl=ja&sl=en&u=https://www.nhscc.org/ccgs/&prev=search&pto=au>

⁶ <https://www.uhb.nhs.uk/foundation-q-and-a.htm>



【出典：House of Commons Library 「The structure of the NHS in England」 を基に作成】

2. 職種の構成

2020年6月時点で、NHSの総従業員数はパートタイム労働者を含めると131万人となっている。職種別の内訳は以下のとおりである。

NHS従業員数（正規雇用者のみ）

職種	従業員数	構成比
全医師数	121,142人	10.36%
看護師数	302,471人	25.89%
助産師数	22,128人	1.89%
救急スタッフ数	16,971人	1.45%
科学、治療、技術スタッフ数	147,554人	12.63%
臨床スタッフの支援スタッフ数	372,075人	31.85%
NHSインフラ支援スタッフ数	184,029人	15.76%
その他	2,035人	0.17%
合計	1,168,405人	100%

【出典：NHS Digital「NHS Workforce Statistics - June 2020⁷」を基に作成】

3. 予算

医療に対する国家歳出額は、1958/59年が135億ポンド、対GDP比2.9%であったのに対し、2018/19年には、実質ベースで10倍以上増加し、1,529億ポンド、対GDP比7.1%にまで達した。また、NHSの財源のほとんどが税金から国家予算を通じて支出されており、NHSの予算も1948年の設立以来、急速かつ一貫して増加の一途を辿っている。保健省の2018/2019年度予算は約1,300億ポンドであり、そのうち1,140億ポンド（約16兆円）がNHSの予算となっている。この予算の756億ポンドがCCGsに割り当てられており、予算全体の約3分の2を占めることになる⁸。

（所長補佐 高橋 2020.11）

⁷ <https://digital.nhs.uk/data-and-information/publications/statistical/nhs-workforce-statistics/june-2020>

⁸ <https://commonslibrary.parliament.uk/research-briefings/sn00724/>